

# 寅さん歩 その17

## ドイツ散歩-7

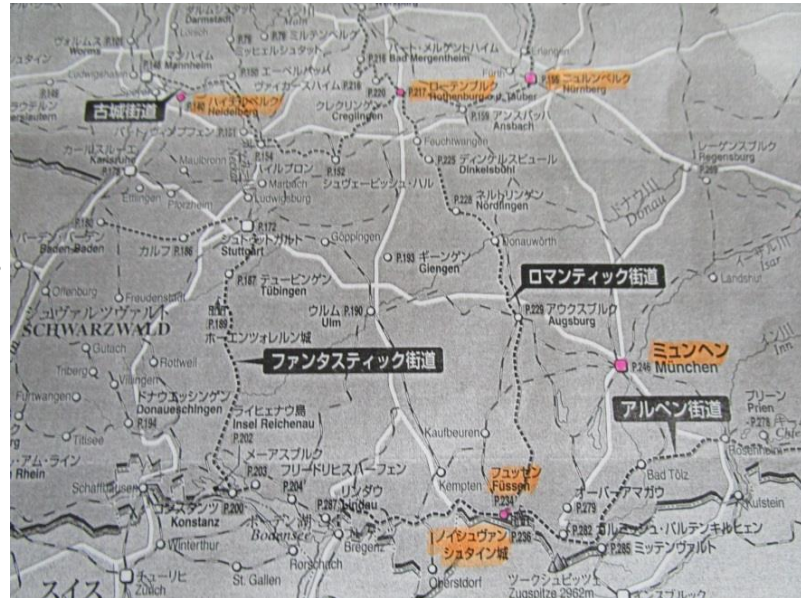


平野 武宏

### [ニュルンベルグ～フュッセン]

更に鉄道で南に下り、フュッセン駅に向かいます。フュッセンは名城ノイシュヴァンシュタイン城への拠点で、ロマンティック街道の終点として有名な街です。

2017年6月15日(木)



朝の散歩のニュルンベルグ中央駅前。  
気温は12度。写真右はきめ細かな配慮の  
アートホテルの朝食です。  
パンの下にある粒状のソーセージは美味。  
8時19分ニュルンベルグ中央駅出発です。  
今日もランチ(2.3€)は鉄道の中で。  
約4時間でフュッセン駅到着(写真下右)  
です。(€=EUユーロ、現在1€=130円程度)

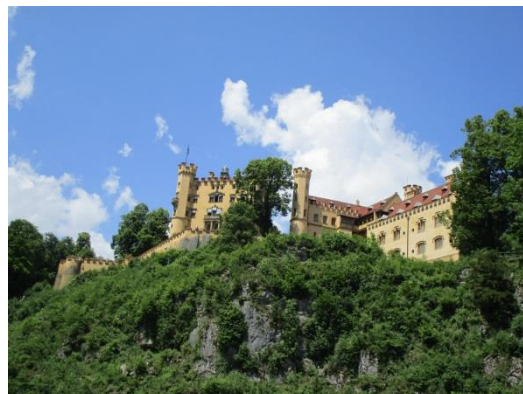




ホテルに荷物を置き、二大名城めぐりに出発です。

## 【ホーエンシュヴァンガウ城】

駅前からバスで向かいます。（湘南台駅から慶応湘南藤沢キャンパスに行くツインライナーはドイツから輸入したとのこと）城の入場申し込みは日本から予約していますが、指定の時間にチケットセンターに取りに行かないと無効になるとのこと。当日でもチケットセンターで空き時間で予約登録が出来ます。



写真上右の城がホーエンシュヴァンガウ城です。バイエルン国王ルートヴィヒ 2 世の父が荒れ果てた城をネオゴシック風（18 世紀後半から 19 世紀にかけて興ったゴシック建築の復興）に再建、狩りの城としました。ルートヴィヒ 2 世が子供時代を過ごした城です。湖の脇の坂道を上ると城の入口です。





写真上右は城の上からの眺めです。  
電光掲示板に予約番号が出る 15 時 20 分  
まで待ちます。城内は撮影禁止ですが、  
イヤホンガイド日本語版の説明です。  
遠くにこの後行く、ノイシュヴァンシュ  
タイン城が見えます。(写真右)



## [ノイシュヴァンシュタイン城]

バスでマリエン橋まで行き、ここから城全景を見て歩いて、ノイシュヴァンシュタイン城へ。17 時 20 分入場です。バイエルン国王ルートヴィヒ 2 世 (1845 年～1886 年) が 17 年の歳月と巨額の費用をつぎ込んで自己の夢を実現させようと、精魂込めて造った白亜の美しい城とのこと。  
城内は撮影禁止です。中世風ではあるが、築城は 19 世紀後半です。国王の晩年は孤独で数奇な狂気に満ちた運命で、シュタルンベルグ湖で謎の死を遂げています。作曲家ワーグナーのパトロンとして、数多くのオペラの名場面を城内壁画に描かせています。見学は中国人の団体と一緒に。我々の説明はイヤホンガイド日本語版です。城内各部屋の装飾を見て、当時の国王の富と権力の大きさに驚く、寅次郎でした。

マリエン橋からの城全景



ノイシュヴァンシュタイン城



城の模型の写真は撮れました。



「白鳥の城」とも呼ばれ、ディズニーの「シンデレラ城」のモデルにもなった夢の城だそうです。



写真右は出口近くにあったトイレの扉です。  
 中は普通のトイレでした。  
 外に出ると雷鳴が聞こえました。やはり山の  
 天気です。林の中の坂道を下る爽やかな散歩で  
 バス停まで行きました。  
 写真下右はお土産店にあった城の四季の写真、  
 秋も冬も良いです。



下図は二つの城の位置関係です。  
 右上の湖の下があるのがホーエンシュヴァンガウ城、  
 左下がノイシュヴァンシュタイン城です。



バスでフュッセン駅に戻りました。

写真下左はホテル入口です。裏にある別館（写真下右）に泊まりました。  
EV がない3階です。エアコンもなく窓が少し開いています。  
でも暑くはありませんでした。



夕食はホテル入口左のレストラン  
で肉料理（ビール込 20€）。今度は  
本物のじゃがいもでした。  
夜は雷鳴、雨も降りました。  
早朝の TV では大人の番組がありま  
した。ドイツ版「早起きは 3€ の得」  
です。



いよいよ明日は最後の訪問先のミュンヘンです。

次回は ドイツ散歩-8（最終回） です。

平野 寅次郎 拝